

第4回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、事務局からの報告や各主体による実践例報告の後、今後の運動の展開に向けた議論がなされました。

1 日時 平成27年3月12日（木）13：30～16：30

2 場所 三重県総合教育センター 多目的ホール（津市大谷町12）

### 3 内容

#### （1）事務局からの報告事項

- ・平成26年度全国学力・学習状況調査の概況、学力向上緊急対策チームの重点取組、これまでの県民運動の成果等について報告しました。

#### （2）各主体による実践例報告

- ・鈴鹿市立明生（めいせい）小学校から、コミュニティ・スクール（以下「CS」という。）を核に家庭・地域と連携した学校の取組について報告されました。
- ・健康福祉部地域福祉課、子育て支援課から、様々な環境におかれる子どもへの学習支援について報告されました。

#### （3）今後の運動の展開に向けて、推進会議で出された主な意見

- ・全国学力・学習状況調査の三重県の結果が3年連続全国平均以下である危機感を県民が共有する。CSを学校応援団に留めず、評価や学校のあるべき姿を話せるような場にし、しっかりと議論を戦わせるシステムを確立して、学校経営に加わってもらうことが大切である。
- ・明生小学校のアウトプット型の学習、きめ細かな指導、地域や保護者等を巻き込む力の3つが重要であるので、他校にも広がっていくことが望まれる。
- ・三重の子どもたちの課題である読解力を高めるためには、たくさん本を読むことではなく、子どもたちが読んだ本について親や教員と話し合う活動をするのが大切である。
- ・家庭的に学習困難な子どもたちへの支援は、学校ももっと経済界から支援を得るようにしていくべきである。
- ・子どもたちは読むことは行っているが、自分の言葉で書くことをさせないといけない。
- ・教員自身が学ぶこと、教えることを楽しいと思うことが大切である。親も同じである。学校関係者評価委員など、外部の方からの厳しい指摘をしっかり捉えて改善につなげることが大切である。
- ・教育再生実行会議は3月4日の提言の中で、CSの必置について検討することについて述べている。一方、学校運営協議会の権限の一つである教職員の人事については、検討課題となっている。CSは学力向上にもつながることから、三重県でも促進していく必要がある。
- ・校長のリーダーシップについて、リーダーの率先垂範、中間層のコミットメント、現場で活用できるツールの提示等が大切である。これを徹底するには、粘り強く取り組むことも大切である。課題は、危機感の共有と横展開である。